

平成30年度

**柏市
町会・自治会・区
活動事例集**

柏市地域支援課

柏市地域協働を考える会

はじめに

1. 作成趣旨

この事例集は、柏市内の町会等（町会、自治会、区）の積極的な取り組みを広く紹介するもので、4冊目になります。

地域活動にあっては、困り事など多くの課題があります。その一方、課題の解決に一生懸命取り組んでいる町会等もあり、この度、課題解決のヒントを得るために、市内の町会等を取材し、事例集としてまとめました。

この事例集を手にとって下さった方が、御自身の町会等以外の取り組みを知り、地域活動に活かしていただければ幸いです。

2. 協働事業紹介

現在、柏市地域協働を考える会と柏市地域支援課は、協働で地縁組織のあり方を模索しており、この事例集はその一環として、取材と編集を行いました。

事例集の他、町会等情報交換会の開催などを、協働で開催し5年目となりました。町会等情報交換会は9回目を開催することができました。

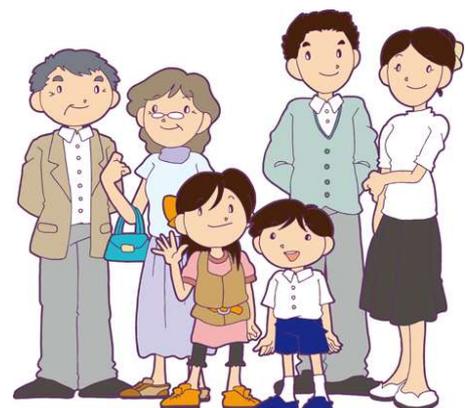
3. 柏市地域協働を考える会の紹介

柏市地域協働を考える会は、柏市地域支援課と協働し、町会や自治会、区等の困りごとや課題について、共に考え、これを自ら解決することを目的に、平成26年に発足した公益活動団体です。

柏市と町会等の地域団体の協働促進に役立てることを目指し、中間支援を行っています。

是非、ホームページをご覧ください。

[柏市地域協働を考える会](#) [検索](#)

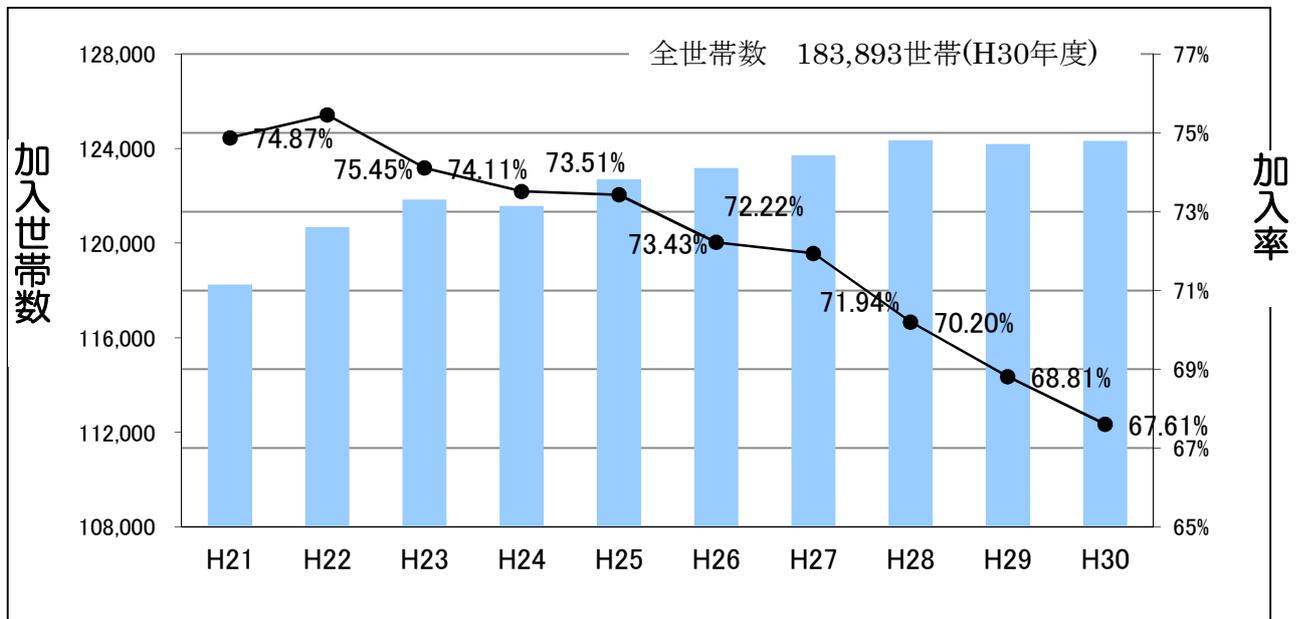


目次

1. 町会等の加入率の実態	…P.	3
2. 町会等運営の課題	…P.	4
3. 課題解決に向けて		
1) 「事務局」の設置と業務移行	…P.	5
2) 協力者や支援者との連携	…P.	6
3) IT（情報技術）の活用	…P.	6
4) 参加者意識の向上	…P.	6
5) 「町会長、町会運営の誰でも化」を進めるスマート化施策	…P.	7
4. 特徴ある活動事例		
1) 町会等の担い手の確保	…P.	8
2) 町会等業務の負担軽減	…P.	11
3) 加入促進活動	…P.	13
4) 防災防犯活動	…P.	15
5) 地域福祉活動	…P.	24
6) 環境美化活動	…P.	29
7) 組織運営	…P.	30
8) アルバム	…P.	32
5. 資料編	…P.	36
6. 町会等情報交換会、取材活動の紹介	…P.	37
7. インタビューを終えて	…P.	38

1. 町会等の加入率の実態

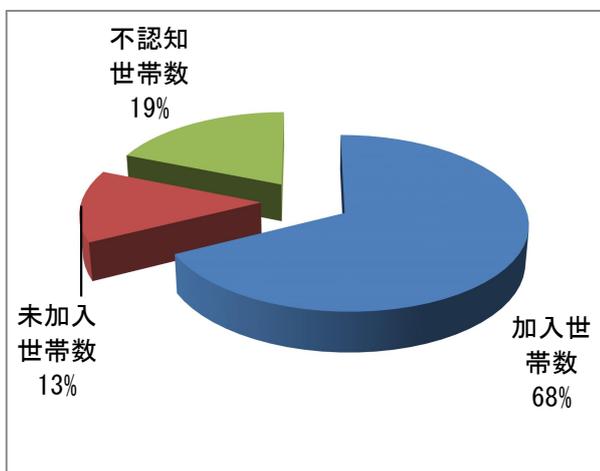
柏市の町会、自治会、区（以降、地域組織と記載します）の加入率は年々下がっており、住人同士のつながりが希薄となり、地域コミュニティの衰退が始まっています。平成30年度の加入率は約68%となり、市内の1/3の世帯（約6万世帯）が町会等に参加していないのが実態です。



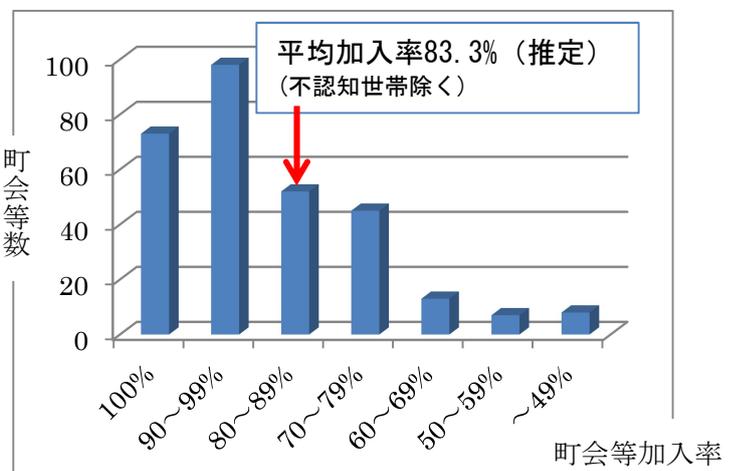
柏市の町会、自治会、区の加入率推移

この9年間の全世帯数の年間増加率 1.6%に対し、町会等加入世帯数の年間増加率は 0.5%でほぼ横ばいです。その結果、町会等加入率は年間 1% ずつ減少しています。

柏市全体の町会等加入率が下がり続けるのは、町会等に未加入の集合住宅の増加と、どこの町会等にも属さない（どこの町会等か分からない）集合住宅や開発地域にある世帯（町会等不認知世帯）の増加であると予想されます。尚、不認知世帯を除いた平均加入率は 83.3%（推定）です。



町会等加入率（推定）



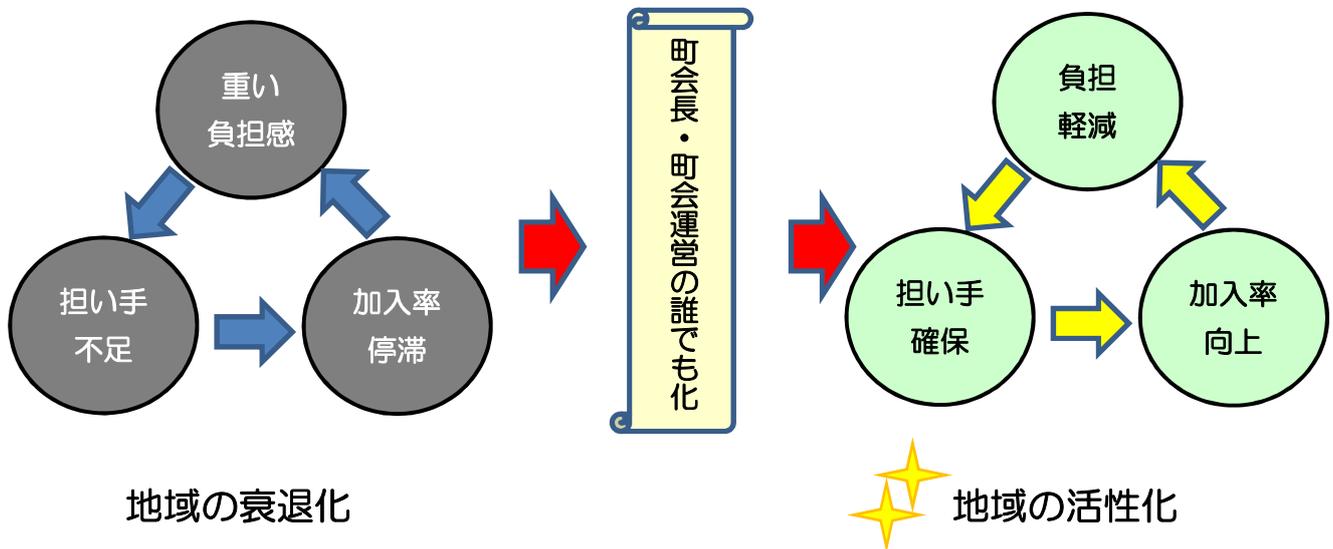
町会等加入率分布

2. 町会等運営の課題

- 1) 町会等加入率は、戸建て住居世帯は非常に高い加入率（90%以上）である一方、集合住宅（特に賃貸住宅）住居世帯の加入率は低い値を示しています。各町会等の加入促進努力や柏市と宅建協会との協定締結により、集合住宅は管理会社やオーナーが一括加入するところも増えており、加入者は増えるものと思われます。しかしながらそれ以上に、どこの町会等にも所属していない、どこの町会の地域に所属しているのかも分からない集合住宅や開発地域が増えていると推測され、実態把握が必要です。
- 2) 各町会等の最大の運営課題は「担い手不足」であり、その原因は「町会業務の重い負担感」にあります。今のままでは、運営が困難となり入会者の減少に加え、退会者の増加により加入率は更に減少し、町会等の存続が危ぶまれる事態になることは想像に難くありません。
- 3) 町会業務の重い負担感は以下のものです。
 - ①運営方法が分からず、手間取り、時間がかかる
 - ②会合に多くの時間が割かれる
 - ③行政からの依頼事項や提出書類の数が多く、作成に時間がかかり、出向くことも多い
 - ④行事が多く、企画や準備がたいへんで、身体的にも辛い
 - ⑤町会会員からの要求事項やクレーム対応に時間がかかり、疲れる
- 4) 上記負担感から、次の担い手（後継者）が不足しており、更に役員の負担感が増しています。
 - ①町会等役員の確保が難しく、時間がかかり、疲れる
 - ②地域委員の推薦に時間がかかり疲れる。また、協力団体（子ども会、敬老会等）役員の確保が難しく、解散となる
 - ③若い世帯が町会行事に協力しない
- 5) 地域住民からは以下の様に見られており、加入率は停滞しています。
 - ①町会等が何をやっているのか分からない
 - ②参加したくなる行事が少ない
 - ③町会と会員間の連絡や報告に紙媒体(回覧)だけでは、手間がかかる割には、効果が薄い（伝わらない、遅い等など）

3. 課題解決に向けて

町会等が抱える「重い負担感」「担い手不足」「加入率停滞」の解決の糸口を掴むためには、まず、誰でも町会長や町会役員ができる負担の少ない町会運営の環境を作る「町会長や町会運営の誰でも化」を進めることが必要です。そしてひとりひとりの負担感が軽減されれば、担い手が確保し易くなり地域の活性化が図れるものと考えます。



「町会長・町会運営の誰でも化」を進めるために、以下の「スマート化（賢明な）施策」が考えられます。

1) 「事務局」の設置と業務移行

町会等の仕事は多岐にわたり、行事開催や会合への出席、事務作業等に時間的、体力的、精神的負担が重くかかります。その仕事の中には資料を配布や連絡など決まったものが多くあります。役員とは別に手慣れた人（事務局）が町会事務を担うことにより、役員の負担を軽減し、役員本来の担うべき会務に専念することができます。

事務局を設置する際には、予め「役員の役割や町会行事・会合の見直し」「業務引き継ぎ書や行事の手引き（マニュアル等）の作成」「予算見直し（有償専任者を置く場合）」を検討する事が重要となります。

事務局が担う仕事（例）

- 書類管理（役員内での共有化）
- 書類提出（市や関係団体への書類送付）
- 会議準備（開催案内、資料準備、会場設営）
- 回覧発出（回覧、個別配布、SNS 通知）
- 掲示板管理（掲示受付、掲出、撤去）
- 出納代行（会計不在時の対応、会計取次ぎ）
- ふるさと会館管理（窓口、使用受付、清掃）
- IT管理（ホームページ、PC管理）等々

2) 協力者や支援者との連携

初めて町会等の役員に就任した際に、何をどのように進めて良いか分からず苦労します。手引書だけでは分からない仕事や考え方については、やはり経験者やベテランから教えてもらい、一緒に活動してもらうことが必要です。町会等役員経験者を「相談役やアドバイザー」に就いてもらう、地域の様々なボランティア団体やふるさと会館を利用するサークルなどに「協力者や協力団体として連携」してもらうと、強い味方になります。また、困った時や迷った時には、柏市役所地域支援課もしくは毎月2回（第1水曜日17時～、第3土曜日14時～）パレット柏にて「町会役員の相談窓口」を開設していますので、是非ご相談下さい。

3) IT（情報技術）の活用

町会等役員になると突然に会合が増え、良く分からない内容に時間を取られることに負担感を持つことが、町会等役員になりたくない大きな理由となっています。また若い世帯からは、回覧が回ってしまうと町会等が何をやっているのか分からなくなり、参加しないのが実態となっています。いつでもどこでも、役員が町会活動の資料を作成や閲覧でき、また会員は町会等の情報を得られる環境を作ることは必須となってきています。

IT技術を活用し、町会等資料や行事予定等を自宅や外出先でも見られ、ふるさと会館の予約状況も確認できるようになると便利です。予め会議資料を確認しておくことで会議回数を減らすこともできます。

今、スマホやパソコンを触ったことのある人は、たいへん多くなってきています。操作が得意な人に携わってもらい環境をつくることも町会等への協力者を増やすチャンスとなります。

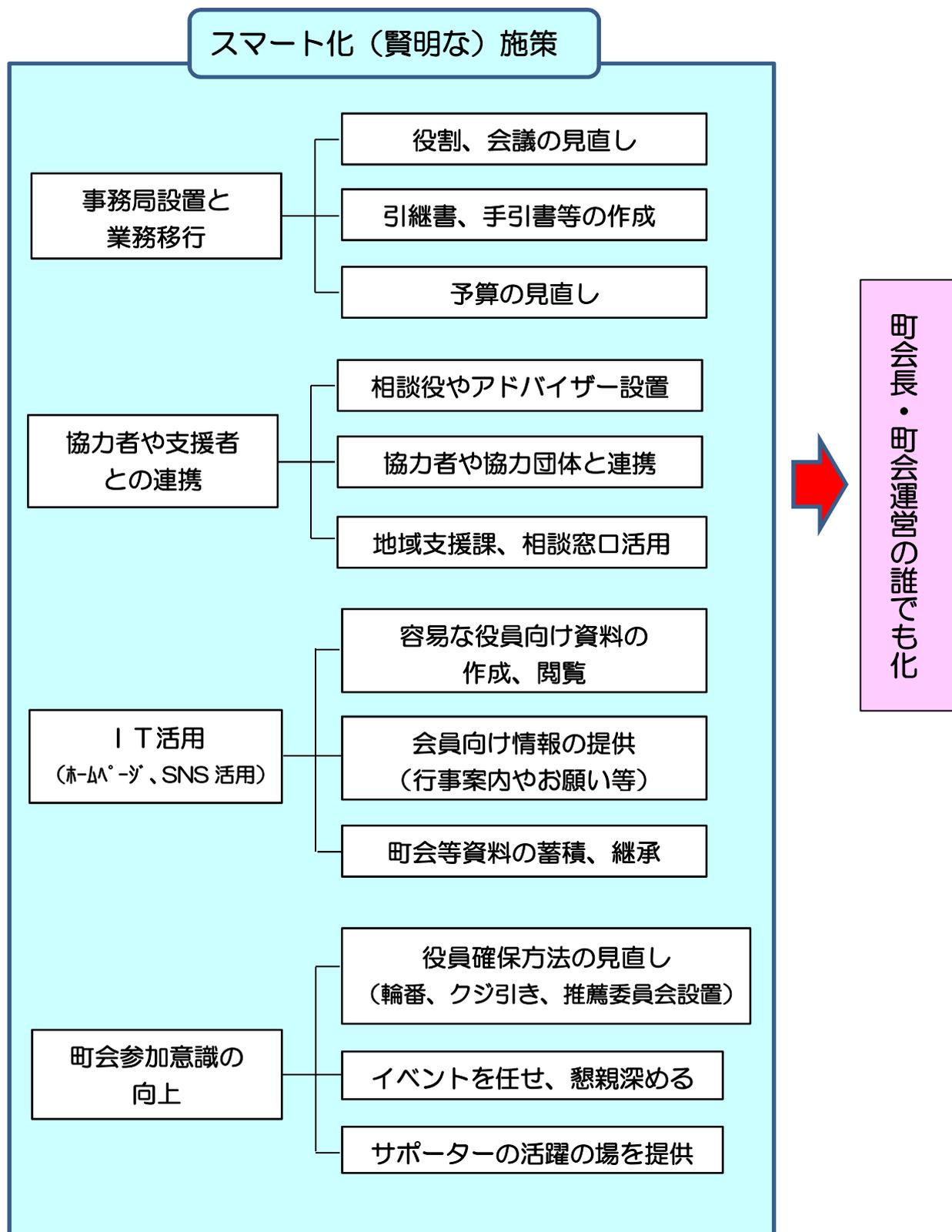
どのように活用したら良いか知りたい際には、柏市地域支援課もしくは柏市地域協働を考える会にご相談下さい。

4) 参加者意識の向上

町会等の活動で最も大切なことは「顔と顔が見える関係づくり」です。そこに注力するためには、町会等活動の負担軽減を図るとともに、会員が活躍する場や、会員同士が懇親を深める場を設けることも重要です。会長や役員を輪番やクジ引きで決めることも、町会に関わる良い機会となると考えます。また会員からの提案を積極的に受け入れ、有志に企画から実施まで任せる機会があっても良いと思います。またパソコンや広報紙作成、お祭り準備など得意な場面で活躍してもらうサポーターを積極的に募集することも有効と考えます。



5) 「町会長、町会運営の誰でも化」を進めるスマート化施策
前述した施策をまとめると以下となります。



柏市地域支援課と柏市地域協働を考える会は、各町会等のスマート化施策実行のお手伝いを致します。

4. 特徴ある活動事例（平成30年度取材分）

各町会等の施策については、平成27、28、29年度の活動事例集も合わせてご活用下さい。柏市役所および柏市地域協働を考える会のホームページよりご覧頂けます。

柏市地域支援課

→ <http://www.city.kashiwa.lg.jp/soshiki/053000/souronjyouhokoukankai.html>

柏市地域協働を考える会

→ <http://www.kyodoukai.jp/operation/case/>

1) 町会等の担い手の確保

①増尾町会の活動事例紹介

【町会概要】

1. 地域 : 増尾地域
2. 世帯数 : 2405世帯（平成30年4月）
3. 町会設立 : 1975年

- 1) 町会活動をよく理解してもらうよう町会を紹介した小冊子「皆さんの増尾町会」を作成し、全戸配布予定。内容は、町会の役割や役員体制(組織図)、活動の内容、経費使途(割合)、地図など。
- 2) 新旧の班長・組長（輪番制）の引継ぎ会議を開催し、具体的な引継ぎに加え、たいへん有意義な意見交換の場となっている。
- 3) 町会活動のあらゆる機会を通じて、『顔の見える関係』を築くよう心がけている。

②大塚町会の活動事例紹介

【町会概要】

1. 地域 : 新田原地域
2. 世帯数 : 300世帯（平成30年4月）
3. 町会設立 : 1969年

- 1) 役員確保は、大塚町会婦人ボランティアグループ「はなみずきの会」のように個々人のつながりが強い協力団体が、役員等の推薦機能を果たしている。
- 2) 行事の時などに声かけを行い、役員候補の見当をつけている。

③豊町西町会の活動事例紹介

【町会概要】

1. 地域 : 富里地域
2. 世帯数 : 787世帯 (平成30年4月)
3. 町会設立 : 1998年

- 1) 役員が欠員した場合、新規に推薦補充。できるだけ継続で役員を引き受けている。
- 2) 女性役員を纏めるベテラン女性役員の存在が大きい。
- 3) 夏祭りなどでのお手伝いを通じて常日頃からそういう目で周囲を見ておくことが肝心。ある役員は、前会長が自分達の町会で親睦ゴルフをやろうという話が出た際に世話役をやったきっかけで、役員をやることになった。

④増尾東映自治会の活動事例紹介

【町会概要】

1. 地域 : 増尾地域
2. 世帯数 : 154世帯 (平成30年4月)
3. 町会設立 : 1968年

- 1) 任期は1年で役割は自分で決める。順番で班長が回り、その中で役員7名を決めるが、今まで決まらない事はなかった。1班20世帯程度なので20年に1回役割が回ってくる程度。
- 2) 女性役員がいると電話で相談がしやすい。地域の情報収集ルートは女性であり、役員に女性を増やすべきと考える。

⑤各町会の担い手確保施策事例

- 1) 役員手当の金額の問題ではなく、ボランティア精神が大切と思う。町会長になって視野が広がった。もっと、そのような体験を(多くの方に)味わって欲しい。(藤心第一町会)
- 2) 各役員が次の役員を推薦してくるが、各協力団体との協力関係が重要と考えている。(旭町町会)

- 3) 「町会運営のIT化」を進めると、若い人たちが町会を理解し易く、また時間制約も少なくすることができるため、若い世帯が入り込み易くなる。今が変え時と考えている。(三俣町会)
- 4) 会長、副会長はくじ引きで選出。(柏の葉三丁目町会)
- 5) 役員が毎年交代していたが、今年度から1名が+αで再任するようになった。現役員が次期役員候補を推薦。(増尾東映第二自治会)

2) 町会等業務の負担軽減

①増尾町会の活動事例紹介

【町会概要】

1. 地域 : 増尾地域
2. 世帯数 : 2405世帯(平成30年4月)
3. 町会設立 : 1975年

- 1) 年輪番制の班長・組長の役割は、手引書や総会資料の中で、優しくマニュアル化されている。新規入居世帯が迷わないように丁寧にわかりやすく書かれている。
- 2) 若い役員には、活動に出られる時に出てもらうよう柔軟に対応。
- 3) 業務量の低減として「納涼盆踊り大会」の櫓建ては、業者に委託。
- 4) 役員手当を、市からの行政連絡業務交付金で全役員へ支給し、経済的負担を軽減。

②大塚町会の活動事例紹介

【町会概要】

1. 地域 : 新田原地域
2. 世帯数 : 300世帯(平成30年4月)
3. 町会設立 : 1969年

- 1) 役員の引継ぎは、直接面談を行い、記録を残し、マニュアル化している。
- 2) 業務量の低減策として、参加者にごみの持ち帰りを心がけてもらっていることで、ごみの最終整理がスムーズになった。
- 3) 記録等のIT化を進めている。

③三俣町会の活動事例紹介

【町会概要】

1. 地域 : 南部地域
2. 世帯数 : 138世帯(平成30年4月)
3. 町会設立 : 1970年

- 1) 町会運営のIT化に「IT班」を新設し積極的に進める。
- 2) IT化の内容は以下。
 - ①町会資料をクラウド上に登録し、誰でも、いつでも、資料を作成、変更、閲覧ができる環境(回覧、運営マニュアル、年間スケジュール表、資料(ごみ当番表など)、記録の蓄積等)の構築。
 - ②町会の会議連絡はメールにて事前に資料を送付し、会議では決定のみ行うことで、会議回数を減らす時間的負担の軽減。
 - ③物品のネット購入を増やし得られる購入ポイントを利用した、町会費の有効活用等である。
 - ④町会費の使い方を、総会時に主要項目(敬老会、夏祭り、寄付)を明確に説明し、有効に使う方法や内容を考え実行している(予算を余らせない、購入ポイントの有効活用など)。
- 3) 70歳近い方もパソコンやスマホを使えるので「IT化」を進める時期と考え、連絡、資料作成、スケジュール管理などを、役員や会員が同じものを見られる環境を構築する予定。町会ホームページもすでに出来上がり、活用が始まっている。

④柏の葉三丁目町会の活動事例紹介

【町会概要】

1. 地域 : 田中地域
2. 世帯数 : 340世帯(平成30年4月)
3. 町会設立 : 1986年

- 1) 引き継ぎは、新規役員用「しおり」に記載している内容にて行っている。
- 2) 町会情報を整理し、年度別ファイリングから、項目別ファイリングへ変更(テーマ別時系列ファイル)した。ファイルはUSBで引き継がれており、オンラインでは無いが、すべてのUSBメモリーの内容を一元化し、町会DBを項目別に作っている。

⑤各町会等の負担軽減施策

- 1) 役員引き継ぎ書を作成している。内容は、町会長の行動や項目毎に具体的な書類を具備。(藤心第一町会)
- 2) 盆踊り会場のやぐらなどは業者に委託。(酒井根町会、永楽台町会)
- 3) 引継ぎは文書で立会者を付けて実施。町会長が一人で抱えるような状況を避けるよう配慮している。(加賀町会)
- 4) 町会役員も、資料をきちんと揃え、新しい事業は会議で合意をとるので、やる事は難しく無い。誰でもできる運営に心掛けている。(旭町町会)
- 5) 会長の交代を考えて、3年前に副会長を5人体制にし、ベテラン役員の役割を分散化して負担軽減を図っている。その対応は良かった。
(豊町西町会)
- 6) 専門職の防災組織「えるそな会」が、町会活動の一部(防災活動、芋煮会お祭り準備など)を担い、町会長・役員の職務軽減につながっている。
(増尾第二自治会)



3) 加入促進活動

- 1) 互助の精神が町会の柱であることを伝え、防犯灯の件などを訴えて入会を勧めている。また小規模集合住宅に対しては、オーナーに協力会員として、入会金と年会費を負担してもらう、回覧は回さないなどの合意書を交わしている。(藤心第一町会)
- 2) 加入率調査を2年に1回実施しており、戸建て/集合住宅毎に、加入/未加入世帯を確認している。

- 3) 町会の目的やメリットの説明は、各担当者が町会加入のご案内を持参し、地域の情報などを説明の上、勧誘を図っている。また集合住宅の管理会社や不動産業者へ、町会加入協力依頼を出しているが消極的。
(以上、増尾町会)
- 4) 転入者があると、戸別に訪問し、加入のお願いの文書や町会概要、会則等を手渡し、町会加入の意義を説明し、加入を促している。また開発業者には、開発着手前から町会加入の協力を依頼している。(酒井根町会)
- 5) 集合住宅(アパート)などとは、管理会社との話して加入を勧めている。また、新しい住宅が建つときは、会長が事前に販売会社へコンタクトを取り、町会長のところに来てくれるように話してもらい、しっかりと加入につなげている。
- 6) 何年か前に新しい分譲地のお宅に泥棒が入ったことがあり、近隣の方同士で顔がわからないことも一因ということで、町会から多少の費用を出して、組ごとに簡単な懇親会を3年ほど続けた。この活動が好評であり、町会活動への理解が進み、転入者には近隣の会員から加入を声かけして、地縁組織だから入会した方が良くと訴えている。(以上、大塚町会)
- 7) 集合住宅への対応は、不動産管理会社から徴収。(豊町西町会)
- 8) 世帯数の大きな集合住宅は、管理会社が加入し、町会費を一括払い。
- 9) 新規入居者や町会脱退希望者(集金時に判明)には、「災害時に助け合うことが困難になりますよ。特に子供がいる世帯に対しては、親が不在時に災害が起きたら子供が頼れるのは町会しかないですよ。また、子供を助けられるのも町会ですよ」説得している。(以上、梅林町会)

【退会抑制施策】

- 1) 班長などの役職を状況により免除し、次の人に代わってもらう。世帯の少ない班を統合しバランスを取る予定。(藤心第一町会)



4) 防災防犯活動

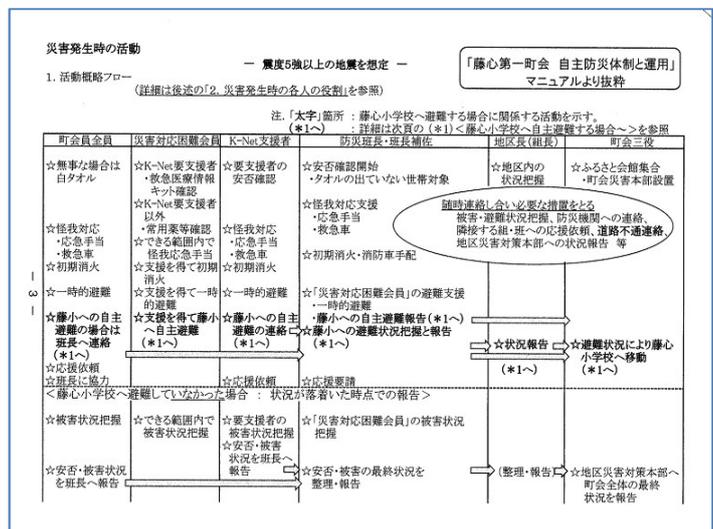
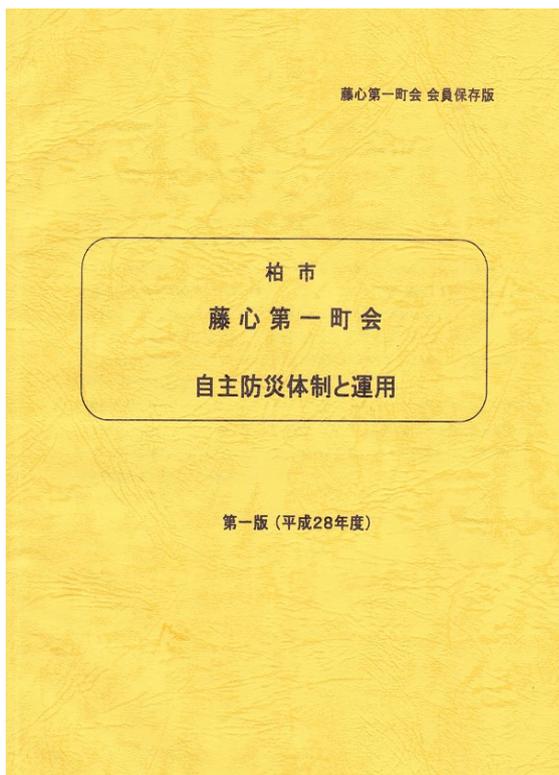
① 藤心第一町会の活動事例紹介

【町会概要】

1. 地域 : 藤心地域
2. 世帯数 : 816世帯 (平成30年4月)
3. 町会設立 : 1960年以前
4. 自主防災組織 : あり、自主防災組織長と自治会長は兼務

【防災活動施策】

- 1) 「自主防災体制と運用」の冊子を作成。
- 2) 逆井分署の協力で、初期消火訓練等を11月に実施。悪天候の中でも80名ほどの参加あり。また、1月にはふるさと会館の防火体制の確認と訓練を実施。
- 3) 消防団には、年間50万円の補助金を拠出。団員14名は充足している。
- 4) 緊急時の連絡方法は、無線機や携帯電話で連絡網を活用。
- 5) ふるさと協議会からの補助を得て独自に無線機を備えている。また安否確認訓練も実施。



②増尾町会の活動事例紹介

【町会概要】

1. 地域 : 増尾地域
2. 世帯数 : 2405世帯（平成30年4月）
3. 町会設立 : 1975年
4. 自主防災組織 : あり、自主防災組織長と町会長は別

【防災活動施策】

- 1) 自主防災会を独立(専任化)させた。自主防災会の役員が町会と兼務であると、組織的にうまく活動できなかつたため独立させた。尚、町会役員も組織に入っており連携を取っている。
- 2) ふるさと協議会主催の防災訓練に参加。
- 3) 土小、増尾西小、土中学校にて、防災避難所会議に参加（1～2回/年）。

【防犯活動施策】

- 1) 防犯パトロールは、毎月、町会役員、増尾ダイヤモンドクラブ（シルバークラブ）、有志合同で実施している。また、ふるさと協議会と共催で夜間パトロールを実施。

③酒井根町会の活動事例紹介

【町会概要】

1. 地域 : 酒井根地域
2. 世帯数 : 2009世帯（平成30年4月）
3. 町会設立 : 1960年以前
4. 自主防災組織 : あり、自主防災組織長と町会長は別

【防災活動施策】

- 1) ふるさと協議会主催の防災訓練や、酒井根小学校で開催された合同避難訓練に参加。

【防犯活動施策】

- 1) 歳末夜間特別警戒やふるさと協議会主催の防犯パトロールに参加。

④加賀町会の活動事例紹介

【町会概要】

1. 地域 : 増尾地域
2. 世帯数 : 999世帯（平成30年4月）
3. 町会設立 : 1970年
4. 自主防災組織 : あり、自主防災組織長と町会長は別

【防災活動施策】

- 1) 防災訓練を年2回実施しており、初期消火訓練及び炊き出し訓練、安否確認訓練を行っている。また県西部防災センターへの研修もあり。
- 2) 自主防災組織は44名の委員で構成しており、そのうち16名のSL（セーフティリーダー^⑨）がいる。
- 3) 防災体制検討委員会（町会役員：4名、防災会：4名）を設置している。

^⑨SL（セーフティリーダー）とは（公益財団法人日本法制学会より）災害救援ボランティア推進委員会（1995年7月発足）が主催する研修を修了した者に付与される認定証で「通称：SL」と呼んでいる。SLは地域の防災リーダーとして「わが身・わが命は自分で守る」を理念に「防災の知識」や「つかえる技」を普及啓発している。尚、柏市防災安全課では防災推進員制度を取り入れ、毎年、町会・自治会・区などの登録推進員に研修を実施しており、SLの研修もこれと似たような内容である。

【防犯活動施策】

1. 各班輪番の防犯パトロール実施、専門委員による青色パトカー巡回。

⑤大塚町会の活動事例紹介

【町会概要】

1. 地域 : 新田原地域
2. 世帯数 : 300世帯（平成30年4月）
3. 町会設立 : 1969年
4. 自主防災組織 : あり、自主防災組織長と町会長は兼務

【防災活動施策】

- 1) 西山町会の古池氏の助言から、防災活動にあっては、安否確認が大事ととらえ、年1回実践している。安否確認は、防災会とはなみずきの会で実施

- し、86%の世帯を確認。2人一組で45分を要する。各戸が「無事です」プレートを表示して呼応するやり方。実施要領書やツールを具備している。
- 2) 柏第三小学校が避難所で、11月に開設訓練を実施予定（避難所準備委員会が主導）。
 - 3) 消防団には、この2年ほど後援会費は支出していないが、団員は派遣している。
 - 4) 緊急時は、スピーカー(2台)で、エリア内を巡回し連絡する。
 - 5) 自主防災会会長は、副町会長が担当し、現在の会員は、防災会長と町会長のみ。協力員として班長と年々の組長、「はなみずきの会」有志が参加。



はなみずきの会用ヘルメット



大塚町会安否確認用グッズ

⑥豊町西町会の活動事例紹介

【町会概要】

1. 地域 : 富里地域
2. 世帯数 : 787世帯（平成30年4月）
3. 町会設立 : 1998年
4. 自主防災組織 : あり、自主防災組織長は専任

- 1) 3棟ある150世帯が入居しているマンションでは、それぞれのマンション防災訓練時、町会関係者にも声をかけ防災訓練を見てもらうようにしている。3回ほど見る機会がある。
あるマンションでは、イザという時、屋上タンク迄揚水出来ないのので、1Fに給水口を設けて3日間は耐えられる工夫がしてある。
- 2) 国道6号線とJRに囲まれた地域なので避難が難しく、近くの雑木林を防災広場に使用できるよう市に要望し内諾を得ている。
- 3) K-Netで登録してある人を一年に一度顔合わせの機会を救援隊組織が作

っている。コンフォール南柏マンションでは支えあいの会がある。

⑦永楽台町会の活動事例紹介

【町会概要】

1. 地域 : 永楽台地域
2. 世帯数 : 1307世帯(平成30年4月)
3. 町会設立 : 1962年
4. 自主防災組織 : あり、自主防災組織長と自治会長は兼務

- 1) 東部消防署の指導で消火、起震車体験、AED等の訓練を年一回実施。近隣センターの会議室を使用するので80名位が参加。また、ふる協の避難訓練にも参加。
- 2) 実災害時の緊急連絡方法は、町会長から副会長へ、翌朝、町内巡回して結果報告がある。
- 3) 自主防災組織は第一防災会、第二防災会がありそれぞれ副会長が兼務し、持ち回りのヘルメットと腕章を配布して幹事と班長で構成。
- 4) 名戸ヶ谷消防団に分担金を支出。

⑧柏市明原町会の活動事例紹介

【町会概要】

1. 地域 : 永楽台地域
2. 世帯数 : 1307世帯(平成30年4月)
3. 町会設立 : 1962年
4. 自主防災組織 : あり、自主防災組織長と町会長は兼務

【防災活動】

- 1) 柏中学校まで避難訓練、避難先で起震車やAED体験を行っている。また、今年度は避難所運営訓練として、町会単独で机上訓練(HUG)を予定。
- 2) 消防団に資金支援を行っている。
- 3) 自主防災組織は、町会役員と班長と、民生委員や健康づくり推進員などの地域委員で構成。

【防犯活動】

- 1) 防犯活動が活発であり、毎週1回柏中学校校内パトロール、毎月1回柏小学校の通学路パトロールを実施。更に年末年始は特別にパトロールを実施し「空き巣ゼロ」を目指している。

⑨三俣町会の活動事例紹介

【町会概要】

1. 地域 : 南部地域
2. 世帯数 : 138世帯 (平成30年4月)
3. 町会設立 : 1970年
4. 自主防災組織 : なし

- 1) ふるさと協議会主催の防災研修に年1回、班長以上の役員が参加。
- 2) 以前より町会として水の備蓄を行っている。

⑩塚崎二丁目自治会の活動事例紹介

【町会概要】

1. 地域 : 風早北部地域
2. 世帯数 : 197世帯 (平成30年4月)
3. 町会設立 : 2006年
4. 自主防災組織 : あり、自主防災組織長と町会長は兼務

- 1) 定期パトロールや年1回の防災訓練は地元消防署協力で励行しており、近隣との合同避難訓練も前述小学校の協力(避難集合、大地震ビデオ上映)で充実。
- 2) 事前に回覧版で、訓練日当日、無事であれば玄関先にタオルを巻き無事を知らせ、巻いていないところは班長が個別に確認。

⑪松葉一丁目第一自治会の活動事例紹介

【町会概要】

1. 地域 : 松葉地域
2. 世帯数 : 165世帯 (平成30年4月)
3. 町会設立 : 1983年
4. 自主防災組織 : あり、自主防災組織長は専任

- 1) 2010年に「防災組織本部」が発足。管理組合、自治会が資金援助している。役員は、それぞれから5名ずつ(会長、自治会経験者)、副本部長は自治会長と理事長が就く。2018年で28名(16名が継続5年以上)が在籍。

- 2) 自治会は、5階建ての集合住宅（貯水タンクあり）と低層住宅から成る。車いす、担架、リヤカーなどがある。防災無線4台、井戸設備もある。簡易トイレ16セット（シェルター付）、ランタンあり、投光器あり。
- 3) 「イニシャルミッションカード」（防災役員不在のとき）による、自主防災避難体制をルール化している。「全員参加型防災」として住民同士のコミュニケーション（全員が自主防災役員）をモットーとしている。「黄色旗」出ていない家は戸別訪問する。
- 4) 防災組織の活動は、月1回の会合、委員は28名、事務局あり。広報は年4回発行。備品管理、ふる協「自主防災専門部会」に派遣2名、地域リーダー育成、マニュアルの作成を行っている。

⑫梅林町会の活動事例紹介

【町会概要】

1. 地域 : 高田・松ヶ崎地域
2. 世帯数 : 1050世帯（平成30年4月）
3. 町会設立 : 1960年以前
4. 自主防災組織 : あり、自主防災組織長と町会長は兼務

【防災活動施策】

- 1) 自主防災会は、親子会等からも参加しており、防災訓練を2回／年行っている。11月にふるさと会館にて防災講習会＋訓練（AED、心肺蘇生等）、炊き出しに親子会含め80名が参加、2月に第四公園（災害時の一次避難場所）にて緊急避難訓練・班長中心に消火器使用方法など消防署と実施。昨年は約180名が参加。
- 2) ふるさと会館には、自主防災会の組織図や避難場所の地図等が掲示されており、常時確認できる。

【防犯活動施策】

- 1) 夜警パトロールには、子供も参加（お土産付き）、警察署より警察官が8名参加。

⑬ 柏の葉三丁目町会の活動事例紹介

【町会概要】

1. 地域 : 田中地域
2. 世帯数 : 340世帯（平成30年4月）
3. 町会設立 : 1986年
4. 自主防災組織 : あり、自主防災組織長と町会長は兼務

- 1) 現在、「安否確認」に徹しているが、340世帯を2名で確認することになる（課題）。
- 2) 避難訓練は、年1回、2丁目町会と合同防災訓練を実施。参加者は60人程度
- 3) 消防団は、第1方面第3分団と協力している。

⑭ 松ヶ丘町会の活動事例紹介

【町会概要】

1. 地域 : 高田・松ヶ崎地域
2. 世帯数 : 560世帯（平成30年4月）
3. 町会設立 : 1961年
4. 自主防災組織 : あり、自主防災組織長と町会長は兼務

- 1) 町会役員22名が自主防災会の役員で役割分担している。
- 2) 防災訓練は、年1回開催。消防署に来てもらい、起震車、消火、通報等の訓練を行う。夏祭りの前段として実施しており、参加者は100名程度。
- 3) 柏市からの補助金は、購入するものが見当たらないので受けていない。

⑮ 増尾東映第二自治会の活動事例紹介

【町会概要】

1. 地域 : 増尾地域
2. 世帯数 : 138世帯（平成30年4月）
3. 町会設立 : 1972年
4. 自主防災組織 : あり、自主防災組織長は専任

- 1) 自主防災組織「えるそな会」が自治会行事にも積極的に参画し、様々なイベントが実施されている。例えば、炊き出し訓練を兼ねた芋煮会を中心に

なって開催している。

- 2) 「えるそな会」は、2か月に1回、会合を持つ。16人が5つの班を担当。災害時の避難経路は班単位で安全確認している。会長は、NPO「国境なき技師団」の理事であり、土木建築に詳しく、陸前高田市、大船渡市の津波被災地の復興支援活動に注力してきた方。
- 3) えるそな会が制作した「防災生活ガイド」は出色の冊子であり、防災の準備、心構えだけでなく、町内案内図、消火器の配置まで記入されており、これ一冊で万全のハンドブックである。他の町会等にとっても参考になる。
- 4) K-NET活動を自主防災会「えるそな会」に移管している。要支援者17名、支援者25名。要支援者には、芋煮会のあとで、「豚汁」「おにぎり」をリヤカーで、役員が配ってK-NETの関係を確認。
- 5) 火の用心チームが7~8名で毎週土曜日に活動。
- 6) 消防団に協賛金を拠出し協力している。

⑩各町会等の活動事例紹介

【防災活動施策】

- 1) 近隣センターに水、プロパンガス、薪(工務店が寄付)を備蓄している。また消防団へ寄付金を出している。(旭町町会)

【防犯活動施策】

- 1) 警察OBと区長が、年末パトロールを実施。防犯灯管理や地下道の非常ベル動作確認、小学校の始終業式の日登下校見守り活動を行っている。(旭町町会)
- 2) 週6日、1日に2回防犯パトロールを行っている親睦会があり、在籍51名(男性14名、女性37名)、活動は毎回15~20名ほど。週に月曜から土曜まで、毎回10時、15時に巡回している。(増尾東映自治会)



5) 地域福祉活動

①旭町町会の活動事例紹介

【町会概要】

1. 地域 : 旭町地域
2. 世帯数 : 2800世帯（平成30年4月）
3. 町会設立 : 1972年

- 1) 柏まつりに、神輿と山車で地域を上げて参加し、盛り上げている。
- 2) 旭町町会および旭町地域ふるさと協議会の共催で行われる「旭町地区ふれあい納涼大会」は23回目を迎え、1日2000人が参加し、2日間にわたり開催される夏の一大イベント。町会役員や町会協力団体、民生児童委員や健康づくり推進員、PTA等の学校関係者、スポーツ団体、商店会などが大きな協力で飲食やゲームなどの夜店を出し、盆踊りや子供向けダンス、花火などイベントで賑わう、まさに自前の夏まつり。



毎年、盛大に開催される納涼大会



大勢の参加者であふれる夜店

②大塚町会の活動事例紹介

【町会概要】

1. 地域 : 新田原地域
2. 世帯数 : 300世帯（平成30年4月）
3. 町会設立 : 1969年

- 1) 「地域を良く知っている女性が防災活動や高齢者の見守りなど、地域の安全安心につながる活動に関与し、細やかな対策が講じられ、コミュニティの再生がスムーズに進む」との考えから、町会として初めて誕生した女性

副会長を中心に、大塚町会婦人ボランティアグループ「はなみずきの会」が2017年4月に活動をスタートした。

- 2) 活動の内容は、町会行事への参加協力、防災組織への加入、防災セミナーの開催や災害時安否確認訓練の実施、高齢者の見守り、児童生徒の見守り、誰でも楽しく集まれるようなサロン風講習会等である。
- 3) 毎月1回の定例会(茶話会)で、情報交換を行っている。
- 4) 制度ボランティア、代々の親子会会長、地域協力者約26名で活動している。会員勧誘は一本釣り。

③柏市野沢町会の活動事例紹介

【町会概要】

1. 地域 : 南部地域
2. 世帯数 : 360世帯(平成30年4月)
3. 町会設立 : 1969年

- 1) 町会が協力し有志による「こども食堂」を運営している。きっかけは「町会を活性化させるには」を、町会役員が考えた際に、若い世帯の町会加入を念頭に、子供達が喜ぶイベントをそのご家族や町会のおじいちゃん、おばあちゃんも楽しく参加出来る「こども食堂」をやってみることとなった。
- 2) 平成29年度から始め、主旨を説明し手伝える町会員を募ったところ、子育ての終わったお母さんを中心に10名程度の方が、賛同いただき、子供ならだれでも喜ぶ「カレーライス」を出す食堂に決まった。
- 3) 今は男子も料理に参加している。現在、賛同者の一人である方が町会から独立して活動をしている。
経費計画は、会館前に設置している自販機収入の5%(月2500円程度)、子供の食事代はタダだが、大人は200円としその収入(月4000円程度)。お米、ニンジンなどの具材は地元農園や持ち込み、ネットで安く調達などの工夫、子供の日の餅つき会で草餅販売代を充当し、釜も買えるなど多少の利益も出ている。
- 4) 年末を除き、毎月最終土曜日の開催で、11時からだが、10時前には子供たちが集まってくる。毎回全体で20~30名の参加がある。町会員により子供たちに将棋を教えたり、カードゲームをやったり、ハロウィンの時は役員、子供たちも仮装してダンスを踊り、たいへん盛り上がる。



野沢ふるさと会館
本日、ども食堂の開催日です！



ハロウィンの日に秋山市長も参加

④梅林町会の活動事例紹介

【町会概要】

1. 地域 : 高田・松ヶ崎地域
2. 世帯数 : 1050世帯（平成30年4月）
3. 町会設立 : 1960年以前

- 1) 4年前K-netを立ち上げて災害時の対応を組織化し、安否確認と顔の見える関係を築いたが、その後、地域での支えあい会議がスタートし災害時だけでなく日常の生活支援の必要性を認識し、支えあい団体「梅ちゃんネットワーク」を立ち上げた。協力会員、支援希望者も多く今年度は50件以上の生活支援を行った。

⑤松ヶ丘町会の活動事例紹介

【町会概要】

1. 地域 : 高田・松ヶ崎地域
2. 世帯数 : 560世帯（平成30年4月）
3. 町会設立 : 1961年

- 1) 支え合い活動のモデル町会。高田・松ヶ崎地域の支えあい推進員が松ヶ丘町会に在籍していたので、その人を中心にいち早く体制づくりに取り組んだ。その結果、当地域で最初の支え合い組織ができ、その後体制づくりに着手した他町会のモデルとなった。経過や関係資料等は全て開示してどの町会でも利用できるようにしている。
- 2) 町会内でのアンケートの結果、生活支援の協力ができる(支援を手伝える)との回答が全世帯の1割近く(約50名)あった。システムを作れば、ボランティアをしたい人は多い。

- 3) 課題の1つとして、自家用車を使っでの生活支援について有償福祉運送に関する法的な制約が多いのと、市や社協からの助成金が薄いので、踏み切れないでいる。

⑥各町会等の地域福祉活動事例

1. 支え合い活動

- 1) 生活支援の会「さくらんぼ」が活動中。メンバー募集中(ごみ出し)。(藤心第一町会)
- 2) 加賀たすけあいネットワーク(平成21年スタート、平成28年の福祉大会で柏市社協会長表彰を受賞)。40名のスタッフがあり、平成29年の実績は158件。有償(500円)であり、ヘルパー業務の範囲外の案件を扱っている。(加賀町会)
- 3) 永楽台ふる協の7町会で、既存の「きんりんの会」を見直し、改めて平成30年10月1日に再スタートした。協力者で特技を持っている人などは、ふる協7町会で相互支援にあたる。(永楽台町会など)

2. お祭り

- 1) 毎年8月に増尾幼稚園で納涼盆踊り大会を実施。櫓は業者に依頼、模擬店は町会が出店。2日間で600名が参加。また「芸能発表大会」も開催している。(増尾町会)
- 2) 夏に盛大に開催される「盆踊り大会」、お正月の「餅つき大会」がコミュニティ事業の柱であり、更にふるさと協議会主催の「三世代ふれあいの集い」「文化祭」にも参加している。
盆踊り大会は、実行委員会で企画、運営しており、輪踊りやイベント、夜店も多く出店され、若い世代や子供たちが楽しんでいる。2日間で1000名を超える来場者がある。

餅つき大会は、町会会館の隣地を借用し、臼と杵で本格的にお餅をつく。毎年、子どもからお年寄りまで150名近くが参加し、盛り上がる。(酒井根町会)
- 3) 「夏まつり」「餅つき大会」を開催。夏祭り実行委員は役員のほか、班長(51名)、婦人会(友の会)、踊りのメンバーなどで構成され、準備を行っている。(加賀町会)

- 4) 祭りの改革として、8年位前には出し物が金魚すくいなど2つ程度であったが、子ども中心の模擬店などを増やし、盛り上げを図り、内外多勢の子供達が集うようになった。(大塚町会)
- 5) 「明原祭り」を毎年2日間にわたり開催している。盆踊りとイベントとして親子会の中学生以下で太鼓の演技がある。焼きそばや焼き鳥の模擬店は、柏中後援会が担当しており、その売り上げは、後援会に寄付。櫓の材料は業者に預かってもらい、またその業者に櫓建て、提灯を下げる配線などを30万円強で設置してもらっている。
- 6) 「D51まつり」を公園周囲の町会と合同で、毎年開催している。親子会が中心となっていて行っている。(以上、柏市明原町会)
- 7) 年間恒例行事として、町会主催の敬老会とクリスマス会を開催。高齢者が多く敬老会は盛大に行っている。
- 8) 今までの夏祭りでは、「参加してください」の案内で、今年は「ごはんを食べに来ませんか?!」と案内し、焼きそばや炒飯を提供した。クリスマス会では、参加者全員にケーキをプレゼントし、大いに盛り上がった。やり方次第で、予算を増額せず(予算を使い切る)楽しむことができる。(以上、三俣町会)
- 9) 夏祭りの参加者は250名程度。会場は、市が借り上げた民有地を町会へ管理委託している広場を利用。(松ヶ丘町会)

3. 健康づくり

- 1) 今年初めて、「ラジオ体操」を学校の夏休みに実施した。町会内の男性が申し出てくれて、10日間で100名もの参加者があった。また、「A(アナログ)スポーツ」と銘打ち、将棋や囲碁、オセロ大会を開催予定。
- 2) ふるさと協議会主催の体育祭の前に、敬老会で参加した高齢者に「昔を思い出して欲しい」と、昔の体育祭の写真を物語風に映写したところ、「こんな時期もあったな!」と喜んでくれ、多くの高齢者が体育祭に参加してくれた。(以上、三俣町会)

4. 子ども会施策など

- 1) 毎月第3土曜日「ハッピーサロン増尾」を、毎週月曜日「子育てサロン」を開設し、町会員や子育て世帯のコミュニケーション不足を解消。町会から補助金を支給している。
- 2) 増尾地域ふるさと協議会主催の多世代交流コミュニティーサロン「つちのこ」を土小学校で、「ますのこ」を増尾西小学校で毎週土曜午後に実施しており、町会はこれを積極的に協力している。地域の子供を地域で見守る、子供にとっても地域にとってもいい交流の場になっている。
- 3) 子供会は、以前2つあったが、現在は1つになってしまった。土小の子供会は約50名が参加。町会としては、子ども会に助成金を支援。
(以上、増尾町会)

- 4) 子ども会はないが、踊りを中心としたキッズクラブがあり、盆踊りや餅つき大会に参加している。(酒井根町会)

- 5) 親子会には60名弱の会員が入会(原則、全員加入)。歓迎会、クリスマスプレゼント、ハロウィンの行事がある。(大塚町会)

- 6) 子ども会は2団体有り、夏祭りや納涼大会にも協力している。町会と小学校のPTAとの関係は良く、町会から見守り活動用のユニフォームをPTAに提供し、子供たちの見守りをしている。(旭町町会)

- 7) 親子会に資金支援をしている。(柏市明原町会)

- 8) 町会内の子供が描いた絵(作品)を、スマホで使えるスタンプのようにネット上に登録し、子どもには「作品が世界中の人が見てくれる」と説明し、喜んでもらっている。実際にダウンロード実績も上がっている。
(三俣町会)

5. 敬老会

- 1) メッセージと粗品を、組長が訪問し、進呈している。(大塚町会)

6. ユニークな活動

- 1) 酒井根地域には多くのボランティアサークルや趣味のグループがあり、町会の活動に協力頂いており、町会からは補助金を支援している。民生委員経験者が、自宅をコミカフェとして解放したり、また高齢者や婦人のグループ、ゴルフや麻雀のグループ、盆踊り愛好会、酒井根地区おやじの会などが、それぞれに活発に活動している。(酒井根町会)

- 2) 組(班)単位での懇親会を開催している。(大塚町会)
- 3) 高齢者向けに「スマホ教室」を開催し、多くの町会員が参加し好評を得た。
- 4) 町会の協力団体には、活動補助金(10万円)を支給し、また納涼大会での出店での売上げの半分は協力団体の収入とし、経費は町会持ちとしている。(以上、旭町町会)
- 5) 趣味の活動が盛んであり俳句、書道、折り紙、歩こう会、ゴルフ同好会など11の団体があり活発に多彩な活動をしている。自治会館は運営委員会が管理しており、会館清掃は毎月1回各サークルが輪番制で行っている。
- 6) 芋煮会に、子ども会も一緒に参加。また、文化祭(作品展)や敬老会、バス旅行等多くの行事を開催し、親睦を図っている。
(増尾東映第二自治会)

6) 環境美化活動

各町会等の環境活動事例

1. ごみ集積所施策

- 1) ごみネットではカラス被害が発生するため、組み立て方式のごみBOXにしたところ、防御にもなり、集積所が綺麗になり、ごみ当番の負担が大きく軽減。町会からはゴミネットに対し、補助金として5万円を補助。
- 2) 行政区毎でごみ出し問題を解決してもらっているが、ある地区では、資源ごみ集積所の当番は2軒で担当し、問題が発生しない様に変更した。
- 3) ごみ捨てルール違反は依然とありお手上げであるが、紙に記載し表示するなどに対応したところ、注意喚起をすると間違えが減少した。
(以上、増尾町会)
- 4) 3年前にカラスネット(3万円/1式、折り畳み式)を40セット購入して設置。(松ヶ丘町会)

2. 住居周辺の環境美化運動

- 1) 第二公園の里親活動を環境部が行っている。(柏市明原町会)

7) 組織運営

各町会等の組織運営事例

1. 運営体制

1) 会長は、3地区の中で順番に担当する。候補は各地区の組長や会長OBで選出委員会を設置し選出する。(藤心第一町会)

2) 町会組織は、5つの行政区毎に町会副会長と町会委員、支部長がおり、各支部に班長・組長がいる体制。総会は会場の制約により、班長・組長以上が出席し、出席率は高い。執行部会議は毎月開催している。

町会役員の選出方法は、5行政区から選出された候補者から会長、副会長を互選し信任。各行政区の副会長の下、町会委員、支部長を推薦により選出。選出町会委員、支部長は総会での承認を受ける体制。

町会組織を5行政区、11支部、101班244組と大きな町会だけに各支部だけで他町会の2~3倍の世帯数がある。(増尾町会)

3) 役員は、会長、副会長3名、会計2名、書記2名、監事2名、評議員21名。組織は、部会が5つ(総務、コミュニティ、防災、環境、会館運営)ある。班は、20~40世帯で構成され、班長は85名いる。また回覧業務を行う行政連絡員が9名おり、市からの補助金を支給している。会員名簿は、掲載承諾者のみ(約1600世帯)、5年に1回作成し配布。

役員の決め方は、推薦(一本釣り)であり、班長は輪番制。役員の任期は2年で、ほとんどの役員は長く継続している(5年以上)。班長の任期は1年であるが、集合住宅にあっては、継続しているケースもある。「若い方も、いつでもどうぞ」とのスタンスでいる。(酒井根町会)

4) 役員体制は、会長、副会長など10名の執行役員と班長(5名)と組長(28名)で運営。会長の任期は2年。

5) 町会長、会長代理、書記、会計(2名)、副会長(5名)で73才の町会長のほか75才以上5名、75才以下4名という、役員年齢である。A、B、C、D、Eの5地区を副会長が担当しており、任期は1年であるが留年の繰り返しで5年から15年務めている。月一回の役員会開催。組織構成は各地区担当の下にそれぞれ3名の幹事が配置され、幹事の下に5名の班長がいる。幹事、班長の任期は1年。(永楽台町会)

- 6) 会長、副会長 2 名を含め 24 名の役員と約 90 名の班長で構成。
部門は、教育・文化部、環境部、福祉部、防犯・防災部の 4 つがある。
役員の決め方は互選、任期は 2 年であるが、長期就任されている役員が多い。(柏市明原町会)
- 7) 役員の決め方は輪番制で、任期は会長、副会長で 3 年を限度、班長 1 年である。高齢により町会活動が出来ない場合は、役員免除をすることもある。班は 6 班で構成。(三俣町会)
- 8) 輪番制(1 年)のくじ引きで各役員を 3 月に決め、ほぼ一か月の前任者との引継ぎ。時おり事情により交代せざるを得ないこともあるが特に問題はなし。推薦なども特になし。なったからには、の意識で理解、担当してもらっていて、女性が多い。副会長は 2 名で、防災と福祉を担当し、市やふる協などの行事に手分けして参加している。
班長も輪番制で進めていて大きな問題はないが、介護や高齢化等のやむを得ない事情で免除もあり。(塚崎二丁目自治会)
- 9) 町会役員や会長選出方法は、24 のグループから 12 名の三役候補と常任委員を選出し、その中から互選により会長及び役員を選出。会長退任後は相談役に就任する。現役員の半数は女性。そのため夏祭りのテント建ては苦勞する。男性は、町会活動が家事の一部と捉え、あまり協力的ではなかったが、最近若い男性は出席するようになっている。
役員任期は 1 年であるが、会長は 2 年任期。手当はなし。
(松ヶ丘町会)

2. 広報活動

- 1) 会員や新規入居者に増尾町会を知ってもらうため、年 2 回広報紙を発行し、町会が担っている活動を PR し、理解を求めている。(増尾町会)
- 2) 町会だよりは、年 3 回発行。特に決算予算を掲載し、会員に周知し理解を得ている。(酒井根町会)
- 3) 今年度、全世帯に町会アンケートを初めて行っている。町会行事への参加や行事に協力してもらえるかの内容であり、町会員の気持ちが把握できる。(旭町町会)

8) アルバム

平成30年度 第一回町会等情報交換会（平成30年10月1日）



パネルディスカッション



真剣なグループ討議



熱心に他町会等の話に耳を傾けます



更に盛り上がる交流会

平成30年度 第二回町会等情報交換会（平成31年1月31日）



若い人を巻き込む事例発表



悩みや困りごとを出し合いました

各町会等役員インタビュー風景



藤心第一町会
池田前自主防災部長 河野顧問



酒井根町会
横尾副会長 阿部会長



増尾町会
後列：清水副会長 西野前副会長 吉場副会長 伊藤会長 幸喜顧問 吉田副会長
前列：岡本副会長 高萩副会長 金丸副会長



加賀町会
四方会長 山口総務部長



旭町町会
藤江近隣以外-長 市村会長



大塚町会

宮崎会長 別納副会長 川村会長※1
宮崎さん※2 真橋副会長
(※1 はなみずきの会 ※2 民生委員)



豊町西町会

岡部副会長 水谷※ 円谷副会長
村田会長 田中副会長
(※地域協働を考える会)



永楽台町会

山本会長代理 松田会長



柏市明原町会 前田会長



三俣町会 牛島会長



塚崎二丁目自治会 田中会長



柏市野沢町会
藁田副会長 小川会長



松ヶ丘町会 矢島会長



梅林町会
長渕副会長 遠山(書記) 大山(会計)
新屋相談役 石井(会計) 福原町会長



増尾東映自治会 増尾東映第二自治会
村井会長 森井副会長



5. 資料編

1) お役立ち事業（補助金等）

- ①行政連絡業務交付金
- ②掲示板設置等補助金
- ③自主防災組織設立補助金
- ④防犯灯維持費補助金
- ⑤防犯灯設置費補助金
- ⑥ふるさとセンター整備事業補助金
- ⑦地域活動支援補助金（プラステン）
- ⑧資源回収報償金

<http://www.city.kashiwa.lg.jp/soshiki/053000/p004176.html>

2) 窓口案内

柏市 地域づくり推進部 地域支援課

電話番号：04-7167-1126

ファックス：04-7167-8103

ホームページ：

<http://www.city.kashiwa.lg.jp/soshiki/053000/index.html>

3) 参考資料

- ①柏市の町会、自治会等一覧

<http://www.city.kashiwa.lg.jp/soshiki/053000/p004177.html>

- ②地域組織と柏市との協働の在り方に関する提言

http://www.city.kashiwa.lg.jp/soshiki/053000/teigen_d/fil/teigen.pdf

- ③協働事業提案（柏市地域支援課/柏市地域協働を考える会）

<http://www.city.kashiwa.lg.jp/soshiki/053000/souronijouhokoukankai.html>



6. 町会等情報交換会、取材活動の紹介

平成27年度より、柏市地域支援課と柏市地域協働を考える会の協働事業として「町会等情報交換会」をスタートしました。各地域組織で工夫や努力をしている内容を情報共有し、参考にして頂く目的で開催しています。

地域組織の役員の方々と、市役所職員、柏市地域協働を考える会メンバーで、共通の課題を出し合い、解決策を探るため、様々な情報交換を行いました。今まで、話し合ったテーマは以下です。

平成27年度	第1回	町会、自治会、区等への加入促進策
	第2回	加入促進策・脱退抑制策
	第3回	どうする町会等の運営や高齢化への対応
平成28年度	第1回	若い人の町会等参画（行事参画，役員登用） ・グループワーク・ディスカッション
	第2回	若い人の町会等参画（行事参画，役員登用） ・我孫子市笹山町会事例紹介
平成29年度	共通テーマ	地域の高齢化に向き合う
	第1回	高齢化に伴う課題とは ・高齢者支援課より、柏市の実情説明
	第2回	元気な高齢者が住む地域づくり ・福祉活動推進課より、柏市の戦略説明
平成30年度	共通テーマ	楽しく町会等活動を行うために
	第1回	スムーズな町会運営を行なうために ・柏ビレジ自治会、柏市ひばりが丘町会と パネルディスカッション
	第9回（通算表記に変更しました）	町会運営のスマート化を目指して ・三俣町会、北柏町会的事例紹介

「町会等情報交換会」の内容も、本事例集に掲載しています。詳細内容は、柏市役所のホームページから閲覧できますので、ご参照下さい。

また、柏市地域支援課と柏市地域協働を考える会では、各地域組織の活動を取材させて頂き、貴重な情報を本事例集に掲載させて頂きました。今まで70の町会等の取材を終え、皆さんが、それぞれの地域の実情に合わせ、様々な工夫と努力をされていることが分かりました。

今後も、「町会等情報交換会」「町会等取材」を継続致しますので、皆様のご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

7. インタビューをおえて

1) 柏市地域協働を考える会の所感

まず、インタビューに応じて頂いた各町会、自治会等の役員の皆様には、大きなご協力を頂き、感謝申し上げます。ありがとうございました。

各町会、自治会、区等の地域組織では、ご苦勞の多い中、その地域に合わせ、地域の方々のために、大変努力されていることを感じることができました。その工夫を、他の地域でご苦勞されている地域組織の役員の皆様と情報共有し、是非、地域活動のご参考にして頂きたいと思います。

町会等活動で最大の課題は、地域の担い手不足、若い人の地域活動への不参加です。その原因は「町会等の仕事に重い負担感」にあります。毎年交代する町会長、自治会長の負担を軽減し、多くの住民の協力を得ることで「町会活動を誰でも担える運営」を進めることが必要と思われます。地域活動の方法や考え方を見直し、専任の事務局設置や、書類やマニュアルを誰でもどこでも見ることが出来るIT化を、真剣に考える時期になったと考えます。

地域組織間の横の連携を強め、楽しく、安心して住める地域づくりに、私たちも、皆様と一緒に考えていきたいと思ひます。

2) 連絡先

柏市地域協働を考える会 事務局（深津英雄）

電話番号/FAX：04-7174-2483

メール：fukatsu@kyodoukai.jp

楽しい地域活動のコツ

- 1) 活動3割、楽しみ7割
- 2) 人と接することを楽しむ
- 3) 深追いしない
- 4) 寛容のこころ